

# 高等部 2 年 音楽東西グループ 学習指導案

大阪府立和泉支援学校

T 1 土橋奈津子

T 2 村田 典子

他 3 名

1. 日時 令和 6 年 9 月 18 日 (水) 第 5 時限 ( 13:20 ~ 14:10 )

2. 場所 音楽室

3. 学部・学年・グループ 高等部 第 2 学年 東西グループ

4. 単元 (題材) 名 「 リズムを感じて合奏しよう 」

5. 単元 (題材) 目標

- ・様々な楽器を体験することで、楽器特有の音色や奏法を知る。(知・技)
- ・楽曲の構造を知り、楽器の音色やリズムについてイメージをもって自分なりに表現しようとしている。(思・判・表)
- ・他者と協働する中で、自分の思いや意図を共有し合い、演奏に生かそうしている。(学・人)

<和泉支援学校キャリアプランニングマトリックス>

- ・集団参加 2 段階 ①集団活動に参加し、みんなと同じ活動に取り組むことができる。
- ・集団参加 3 段階 ②集団における役割を理解し、協力する。

6. 生徒観

高等部 2 学年は、国・数・生などの授業を 4 グループ編成で行っている。本グループは、1・2 グループの生徒で構成されており、障がいの状態は重度から中度までの実態がある。

器楽活動では、音やリズムの違いを理解できる生徒から、音やリズムを感覚的に捉える生徒まで、活動内容等の理解も含め認知発達や生活経験等に違いがある。また、生徒の手指の巧緻性や身体的な動作性も様々であるため、楽器の動作性を考慮して、生徒に応じた形で楽器を提供する必要がある。リズム打ちでは、教員の見本を見てすぐに再現できる生徒から、教員と一緒に 1 拍打ちができる生徒がいる。

取り組みへの姿勢として、本グループの生徒は、活発に発言できる生徒もいるが、全体的には発表に対して自信のなさや消極的な傾向がある。しかし、日頃は自分の好きな歌を聴いたり、ロズさんだりと音楽に親しみ、音や音楽の受け入れも良好である。このことから、器楽合奏を通して、個人としての表現から、友だちや教員と協働した発表活動へとつなげることで、表現することの楽しさや達成感を感じたり、また、聴いた人に肯定的に評価されたりすることで、一人ひとりの自信となる一助としたい。

7. 教材観

本単元は、特別支援学校高等部学習指導要領 音楽 (2) 内容 A 表現 1 段階「イ.器楽の活動」に関わるものである。思・判・表等の内容 (ア) に、「器楽表現についての知識や技能を得たり、生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること」とある。表現を創意工夫するということは、「こんな音を出したい、こんなイメージで演奏したい。」と、思いや意図をもち、それを受けて「こんな音の出し方をしてみよう。と、自分なりに表現することであると考える。しかしながら本グループの生徒は、障がいの特性上、イメージすることや抽象的な理解が難しい生徒が多く、今までの自己の実践の中でも、音を出す楽しさ、友だちと音を合わせる気持ちよさを感覚的に味わうことに留まることが多いように感じる。

本単元では、イメージや意図をもって自分なりの表現ができることを目標に、生徒にとってイメージしやすい動物

をモチーフにした楽曲「サンバ・サバンナ」(春畑セロリ作曲「生き物スケッチブックより サンバ・サバンナ」)を設定した。本楽曲は、サンバのリズムを基調としており、楽曲を通して、4小節のコードパターンが繰り返される構成になっている。歩くテンポでの繰り返しにより、サンバ特有のグルーブ感が生まれ、同調性を感じることができるところも、合奏教材に適していると考え選曲した。

曲の構造を、曲想と関わらせて気づけるように、2つのリズムパターンを設定した。1つ目は、リズムパートを掛け合いの2パートとビートを刻む1パートの計3パートに設定した。生徒がイメージしやすいように、3パートにはそれぞれリズムの音価に合わせて、「しまうま」「ぞう」「ゴリラ」と動物の動きや鳴き声の言葉をあてはめ、それぞれのリズムのイメージや表現したい意図をリズム演奏に生かすようにした。2つ目は、3連符を含むリズムを、「サンバ・サバンナ」の言葉にあてはめ、曲のエンディングに3パートが同じリズムを演奏できるように編曲した。3連符のリズムや、みんなで同じリズムを曲の締めくくりとして演奏することから想起されるイメージを、どう表現するかを共有することで、集団での音楽表現につなげたい。

## 8. 指導観

「音楽科の学習は、生徒が音や音楽の存在に気づき、それらを主体的に捉えることによって成立する。」(特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編 高等部)とある。生徒の障がい特性上、他者を含む外界に注意を向けることに課題のある生徒や、場面や活動の変化に不安を感じ、適応することに課題のある生徒が多い中で、生徒が音楽活動に主体的に取り組めるようにするために、主に2つのことに留意している。

一つ目は、安心安全な環境作りである。物理的な環境設定に加えて、精神的にも安心できる雰囲気づくりに留意している。本グループの生徒では、精神的な不安から、日によって授業開始時間に自席に座ることが難しい生徒がいるため、必要に応じて事前に取り組む内容、担ってほしい役割を個別に伝えることにしている。発表活動などは、パーテーションがあればできる等、本人が集団参加できそうと思える環境を提案することで精神的負担を軽減するようにしている。また、正解のない音楽表現を逆に不安に感じる生徒も多い。音楽活動に対して、生徒の言葉や表情を含む反応や表現を、肯定的に受け止め言葉がけするようにしている。サブ教員も、生徒に個別に肯定的な言葉かけやハイタッチ等フィードバックすることで、教室内全体が生徒にとって安心な場所になり、主体的に活動に向かう意欲、態度につながると考えている。

2つ目は、教材設定した楽曲を十分に定着させることである。知っている曲、予測のつく曲というのは、精神的な安心につながる。耳馴染んだ音や曲を聴くことで、音や音楽の存在に気づき、活動に主体的に取り組めると考える。本前期課程では、「やまびこさん」「サンバ・サバンナ」の2つの楽曲(鑑賞領域を除く)を設定している。楽曲を設定する際には、1つの楽曲で各表現領域(歌唱・器楽・創作・身体表)に発展できるように考え、それができるような幅のある楽曲であることに留意している。一つの楽曲を十分に定着させることで、その楽曲をベースに、生徒の主体的な表現へつなげることを意識している。

## 9. 単元(題材)の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① サンバの要素を知ろうとしている。	① 楽曲を聴くことや、作曲者の意図を知ることで、イメージしたことを自分の言葉や表現で伝えようとしている。	① リズム合奏に興味をもって取り組もうとしている。
② 休符の意味を理解し、休符カードや教員のハンドサインを見て、音を止めることができる。	② 自分のパートリズムからイメージしたことを言葉や表	② 自分のパートや他パートのリズムを聴きながら、音を合わせようとしている。
③ 自分のパート楽器を理解し、奏法を身につけている。		③ 曲想を感じ取り、リズムにのって、楽しんで合奏しよう
④ 自分のパートリズムを理解し、音源		

や他パートの音に合わせて、自分のパートを正確に演奏している。 ⑤ 楽曲の構造を理解して、リズムの重なりや変化を感じて演奏している。	現で伝えようとしている。 ③ 自分のパートリズムを、イメージや意図をもって表現に生かそうとしている。	している。 ④ 自分のパートリズムからイメージや意図したことを友だちと共有して合奏しようとしている。
--	---	---

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全10時間、本時は第9時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	・サンバの要素について知ろう。	・サンバの動画を鑑賞し、たくさんの種類の楽器を使うこと、ビート楽器に合わせて歩きながら、リズムに合わせて身体を動かしながら合奏することを知る。	・サンバについて要素を2つに絞って伝えることで、理解を促す。	A① (観察)
	2 3	・リズム合奏の構成を知る。	・3パートの動物リズムを知り、自分がどの動物リズムを担当するか理解する。 ・4小節のリズム伴奏に合わせてボディパーカッションで合わせる。	・3パートのリズムに動物をあてはめ、それぞれの動物にあった言葉をリズムにあてはめることで、わかりやすく提示する。 ・休符カードと教員のハンドサインで音を止めることを視覚的に提示することで理解を促す。	A②③ C①② (観察)
	4 7	・自分のパート楽器を理解し、奏法を知る。 ・自分のパートリズムを理解し、音源や他パートの音に合わせて合奏する。	・楽曲を聴き、サンバの要素と関わらせる。 ・さまざまな楽器と音色を聴き、自分のパート楽器を演奏する。 ・音源に合わせて合奏する。	・サンバの要素を、たくさんの楽器を使うこと、ゴリラの動物リズムがビート楽器であることに絞って提示する。 ・各パートのリズムに合った楽器を設定する。 ・個々の生徒の操作性に応じて楽器を提示する。	A④ B① C②③ (観察)
	8 9 (本時)	・楽曲の構造を理解し、リズムの重なりや変化を感じて演奏している。 ・イメージを友だちと共有して、合奏しよう。	・3パートのリズムの箇所、休符の箇所、エンディングのリズムの箇所、で楽曲が構成されていることを意識して演奏する。 ・各パートの動物リズムのイメージを教員の提示したものから選ぶ。 ・エンディングのリズムをどんなイメージでどう演奏するか、共有する。	・見本動作を大きくし、出だしのタイミング、休符、リズムの変化への気づきを促す。 ・各パートの動物と、リズムのイメージを関わらせて気づけるように発問する。 ・エンディングのリズムのイメージを演奏に生かせるように発問する。	A⑤ B②③ C②③④ (観察)

## II. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・ 楽曲とリズムの構造を理解して、リズムの重なりや変化を感じて演奏することができる。
- ・ 自分のパートリズムを、友だちとイメージや意図を共有し、自分なりの表現で演奏できる。

### (2) 本時の評価規準

- ・ 楽曲の構造を理解して、リズムの重なりや変化を感じて演奏しようとしている。(A⑤)
- ・ 自分のパートリズムを、友だちとイメージや意図を共有し、自分なりに表現しようとしている。(C④)

### (3) 本時で扱う教材・教具

- ・ リズム・休符・表現の各カード、
- ・ タブレット型 PC (Keynote スライド、GarageBand 音源)、モニター、Lightning ケーブル
- ・ マイク、マイクスタンド、コンガ、ボンゴ、スネアドラム、フロアドラム、タムタムドラム、タンバリン、ビブラスラップ、ウィンドチャイム

### (4) 児童生徒の実態と本時の目標

※省略※

### (5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
5分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつ</li> <li>・ 学習内容の確認</li> <li>・ 出席の歌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日直によるあいさつを促す。</li> <li>・ 出席の歌で授業の始まりを意識させる。</li> <li>・ 歌中の返事は、大きな声、小さな声、リズム打ちをしながらのバリエーションがあることを確認してから行う。</li> </ul>	
10分 展開 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「やまびこさん」</li> <li>①発声で1番のみ歌う。</li> <li>②呼びかけパートを独唱する。</li> <li>1番 歌</li> <li>2番 リズム</li> <li>3番 歌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①歌う姿勢について、手足と体幹に絞って意識させる。</li> <li>②ホワイトボードに独唱する生徒を書き、役割をわかりやすく提示する。</li> <li>③リズムを作るのが難しい生徒は、リズムカードをあてはめるようにする。</li> </ul>	
25分 展開 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合奏「サンバ・サバンナ」</li> <li>①前時までの確認 楽曲の構成を確認する。 各パートリズムの練習 通し練習</li> <li>②リズムのイメージと表現を共有する。</li> <li>③器楽合奏 通して演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①視覚教材を提示することで、楽曲の構成（3つの動物リズム、休符、全員のリズム）や、自分のパートリズムの理解を促す。</li> <li>②動物の絵カードに対応した表現カードを選ばせることで、イメージと表現を結びつけやすくする。</li> <li>③リズムのイメージをもって合奏できるように言葉かけしてから演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A⑤（観察）</li> <li>C④（観察）</li> <li>A⑤、</li> <li>C④（観察）</li> </ul>

10分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付け</li> <li>・終わりの歌「誕生日」</li> <li>・振り返り</li> <li>・あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して片付ける。</li> <li>・終わりの歌で、気持ちを落ち着かせ、授業の終わりを意識させる。</li> <li>・できたことを伝え、認める言葉かけをする。</li> </ul>	
------------	---	--	--

(6) 教室配置等（器楽合奏時）

